

## 全天 X 線監視装置 MAXI による MAXI J1659-152 の発見と「すざく」による追観測

J17a

根來均、小澤洋志、諏訪文俊（日本大）、河合誠之（東京工業大）、山岡和貴、中平 聡志、吉田篤正（青山学院大）、上田佳宏（京都大）、芹野素子、三原建弘、杉崎睦、松岡勝（理研）

2010 年 9 月 25 日 8 時 5 分に Swift 衛星の BAT 検出器にトリガーがかかり、線バースト GRB 100925A として新天体が GCN に報告された (Mangano et al. GCN 11296)。同日 10 時 8 分には、全天 X 線監視装置 MAXI の突発天体発見システムにも同天体が自動検出され、Swift/BAT にトリガーがかかった数時間前から徐々に増光していることが明らかとなった。我々は、MAXI メーリングリスト (<http://maxi.riken.jp>) に新天体の出現を通知した後、X 線新星 MAXI J1659-152 として ATel にその増光の様子を速報した (Negoro et al. ATel 2873)。

同天体は、出現後まもなくスペクトルが軟化し続け、MAXI で観測できた 50 日ほどの期間では、3-4 日間ほど続いた Soft State の期間を除き、ベキ成分が降着円盤起源と考えられる熱的成分より幾分支配的な Intermediate/Very-High State に長くあった。同天体発見の後、20 を超える電波から線まであらゆる波長で追観測が行なわれ、RXTE/PCA のポインティング観測により激しい時間変動とともにブラックホール候補天体特有の準周期的変動 QPO も観測された。また、9 月 29 日から 10 月 1 日までの 3 日間断続的に「すざく」衛星による ToO 観測も行なわれ、Intermediate/Very-High state 状態にあることが確認された。

講演では、約 20 年ぶりに日本の観測装置により発見された系内ブラックホール候補天体の発見とその特徴について、MAXI とすざくの観測結果から報告する。